石岡市立東成井小学校
学校だより　２０号
令和５年１０月６日
校長　　石﨑　重臣

太郎・次郎

「太郎・次郎」は，校庭にそびえるいちょうの木です

【組織目標】児童が主役　みつけよう　かんがえよう　やってみよう～認める　寄り添う　支える～

折り返しです！～前期終業式より

６日（金）に前期終業式を行いました。３人の代表児童による作文発表をご紹介いたします。素晴らしい振り返りができた発表でした。

前きにがんばったこと、後きのもくひょう　　【２年生】

わたしが前きにがんばったことは、お友だちと仲よくすることです。いじめ防止フォーラムでも、いじめはよくないことだとべんきょうしました。二年生のクラスもくひょうは「時間を見てこうどうができ、やさしく声をかけあえるクラス」です。このもくひょうにあるように、こまっている友だちには声をかけたり、男の子も女の子もぜんいんで仲よくできるようにしました。あまりできなかったことは、時間をまもるということです。チャイムがなっても、まだ友だちとお話をしてしまったりしました。後きでは、チャイムがなったらきちんとお話をやめて、かっこよくすわりたいです。もし、できていないお友だちがいたら、やさしく声をかけてあげたいです。一年生に、かっこいい二年生だと思ってもらえるようなこうどうをしたいです。

ほし先生と今の二年生のメンバーが大好きです。後きも楽しく仲よくすごしたいです。

前期をふりかえって　　【４年生】

あっという間の半年間でした。三階に上がり、まどから見えるけしきも変わりました。クラブや委員会など、なれてきた学校生活が、また新しく始まったような気がしました。そんなきんちょうで始まった四年生の前期の生活が終わります。

この半年間で、わたしはリコーダーのえんそうが上手になり、わり算のひっ算ができるようになりました。リコーダーは、もっといろいろな曲をえんそうしてみたいと思うようになり、５月からいっしょうけんめいに練習しました。わり算のひっ算は、最初はめんどうで、考えずにやっていました。ですが、友だちが次々にできるようになってきた時、このままやらずににげてしまおう…いや、やらないとだめだ、やるしかない、と思いました。自分だってできる、自分ならできる、自信はなかったけれど、そう自分に言い聞かせてがんばることができました。

この二つができたことから、何かをしたいという目標をもつことの大切さ、そして、自分を信じて、自分に負けないということを学ぶことができました。

いよいよ四年生の後半です。前半は、四年生になるためにがんばりました。そして、後半は「四捨五入したら五年生」と先生に言われたように、五年生になるために、この二つを続けていきたいと思います。

前期をふりかえって　　【６年生】

今日は、前期の終業式です。そこで学習や生活について前期をふりかえりました。

まず、学習面についてです。がんばったことはたくさんありますが、その中で特にがんばったことは社会です。六年生になり、歴史の学習が始まりました。前期には、縄文時代から戦国時代まで学習が終わりました。多くの歴史上の人物や出来事が出てきて、初めて聞く言葉もたくさんありました。覚えなくてはならないこともあって大変でしたが、新しいことを知ることはおもしろいなと思えるようになってきました。新しく出てきた言葉をたくさん覚えたいです。また、どの教科においても、気付いたことはノートにたくさんメモを取っていき、自分なりのノートを作っていきたいです。

次は、生活についてです。縦割り班清掃では、下の学年の子たちに掃除を教えてあげたり、黙働を意識して行ったりするなど、学校に感謝の気持ちを込めて掃除をすることができました。これからも続けていきたいです。また、毎日、気持ちのこもったあいさつをすることにも意識して生活できました。学校や家庭だけでなく、地域の方にも進んであいさつをし、あいさつの輪を広げたいです。

前期には、陸上記録会や宿泊学習などの行事がありました。陸上では一生懸命に練習し、本番ではベストを尽くすことができました。宿泊学習では、友だちと一緒に活動することを通し、新たな一面に気付き、とても有意義な時間を過ごすことができました。これから卒業までの半年間、何事にも全力で取り組み、一日一日を大切に過ごしていきたいです。

来週から始まる後期に向けて、なるいっこみんなで「振り返り」をしました。